

未曾有の大震災の後、これから

弁護士 住田裕子

私は、震災の1ヶ月前の2月17日、南三陸町を講演のために訪問しました。会場の公民館で、同じ年齢の佐藤町長さん、女性の担当課長さん、そして、これからを期待するということでわざわざ紹介していただいた女性係員にお会いしました。その夜宿泊したのは、海を臨み、カモメが窓まで訪れるホテル観洋^{かんよう}。その女将^{おかみ}さんも元気印でした。約2週間後の2月末ころ、三陸産のほや、わかめを東京の私の事務所に送っていただき、皆で海の幸を堪能しました。

そして、この大地震と津波。その後、刻々と報道される悲惨で深刻な被害状況。これからの活躍を期待されていた女性係員は、最期まで「津波です。逃げてください。」と叫び続けたとか。そして…

その中での朗報は、町長さんが、「多くの職員が、津波に流されて…」と涙を浮かべながらも、ご自身は防災庁舎の屋上のテレビアンテナなどによりかろうじて命拾いをされたこと。もう一つ、ホテル観洋の女将さんが、建物は3階まで水浸しになったけれど、自家発電は可能だったので、残された食材やライフラインで炊出しをし、避難された方々や応援ボランティアなどの力となって八面六臂^{はちめんろっぴ}の活躍をされていることをインターネットで知ったこと。

何かお力になりたい。私の出身地兵庫県は、阪神淡路の大震災を経験しているが、それ以上の困難な実態を見るにつけ、なんとかしたい。がんばっている女性たち、被災地の方々のために。

予告 こんなプロジェクトを考えています

1. 漁業の再生・復興のために、とりあえず、現金収入となる「^{かつお}鰹」の船を出すための基金をつくり、船いっぱい鰹が取れたら、全国の消費地にとどけ、支援と復興の第一歩の喜びを共有すること。
2. 政治や行政の動きも大切だが、民間の力を効果的に集めてひとつずつ、地歩を固めていくこと。
3. 生産者と消費者の協力で、できるところから復興を目に見える確かな形とし、後に続く人々を生み出すこと。

風評被害をなくすためにも、消費者として生産者を応援していくこと。「できることをできるかぎり精一杯早く」をめざしています。プロジェクトの構想が固まりましたらお知らせします。その節には、どうか皆様、お力をお寄せ下さい。